

## I 研究の概要

### 1 研究主題

社会に開かれた教育課程編成の在り方

～主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた学習過程の改善～

(2年次/2か年計画)

### 2 研究主題の設定理由

本校では平成27年度と28年度の2年間、特別支援教育に関する実践研究充実事業として、特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究に取り組んだ。そして、平成29年度はこの2年研究で得られた成果を継続するとともに、新たに「地域と目標を共有する」という視点を加え、実践に取り組んできた。その結果、地域と共に取り組む活動の定着・継続・発展が図られ、地域と目標を共有した学習活動の充実へとつながった。また、地域と目標を共有する実践を通し、地域と学校がお互いに必要とする、必要とされる関係になってきていることで、児童生徒の学習意欲や働く力の向上、校内外の様々な人と関わり合い、主体的に課題解決に向かう姿の育みなどにもつながってきている。

このように、地域と目標を共有した活動を積み重ねたことで、各学部・寄宿舎ともに児童生徒に様々な変容が見られるようになったが、以下の点について課題が残った。

○個別の指導計画とのつながりをより意識した授業実践

○地域と目標を共有する教育活動の継続推進と充実・発展

そこで、今年度は特に次の2点に力を入れて実践していくことで、児童生徒の「自立と社会参加」の基礎となる資質・能力を養い、社会に開かれた教育課程を実現していくことができると考えた。

○昨年度の取組を通して明らかとなった、児童生徒に身に付けたい「自立と社会参加」の基礎となる資質・能力が個別の指導計画につながっているかの確認を行い、しつかりと関連付けていくこと

○地域と目標を共有する学習活動を継続するとともに、お互いに必要とし、必要とされる関係となるようにさらに工夫を重ね、実践を積み重ねていくこと

以上のことから、本年度の研究主題を設定した。

(研究の目的)

- ① 地域のニーズや目指す児童生徒の姿を学校と地域が共有し、連携して児童生徒を育む教育活動を推進する。
- ② 「自立と社会参加」の基礎となる資質・能力を育むために、児童生徒の主体的・対話的で深い学びを目指して、学習過程を改善する。

### 3 研究仮説

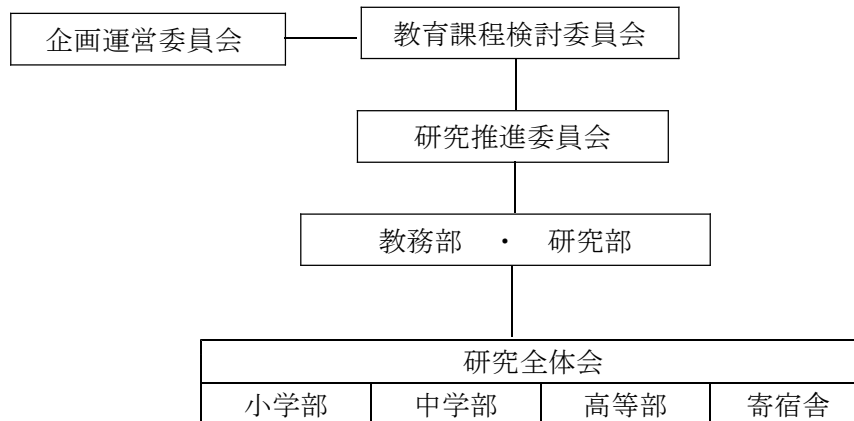
本校の教育課程編成の仕組みに則り、各教科等の指導内容を相互に関連させた指導計画を、地域の有効活用も検討して作成する。

地域の活用には、地域のニーズや目指す児童生徒の姿を学校と地域が共有・連携して教育活動を実施・評価し、改善していく。

また、児童生徒が主体的に活動に取り組み、他者との協働や外界との相互作用を通じて自分の考えを広げ、深める対話的な学びの過程を重視し、改善していく。

これらのことにより、児童生徒の生きて働く知識・技能の習得と、社会に開かれた教育課程編成が進展するであろう。

#### 4 研究組織



教育課程検討委員会：校長・教頭・学部主事・主任寄宿舍指導員・分掌主任・各学部研究リーダー

研究推進委員会：校長・教頭・学部主事・教育課程コーディネーター※  
研究部・寄宿舍研究担当

※教育課程コーディネーター：各学部において、指導計画の立案や実施に当たって、学校目標や学部目標とのつながりを学級担任等に助言したり、調整したりする。

#### 5 研究内容・方法

(1) 教育課程編成の仕組みに基づいた実践

- ①教育課程編成の全体構造を全職員で共有する
- ②年間指導計画等立案時の留意点などを全職員で理解する

(2) 地域を活用した学習を継続し、深める

- ①「自立と社会参加」につながる魅力的で特色のある「地域と関わり合う教育活動」の創造
  - ア 地域と目標を共有する
  - イ 各学部の地域と関わる教育活動のキーワードの設定と地域と関わる教育活動一覧の作成

《各学部の地域と関わる教育活動のキーワード》

小学部	「地域を知ろう」～地域の人と出会い、触れ合う～
中学部	「地域に元気を届けよう」～地域の人と共に喜び合える活動を広げる～
高等部	「地域と共に担おう」～地域の一員として、自分たちでできることを生み出す～

(3) より良い地域での教育活動と教育課程の改善につなげる地域アンケートの実施と分析

(4) 主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた、日々の授業づくり

- ① 年間計画と単元・題材の検討
- ② 教育活動を通じて児童生徒に身に付けてほしい資質・能力を指導案に盛り込む
- ③ 「特別支援教育のミニマムスタンダード」の活用
- ④ 日々の授業と「地域と関わる学習」との関連付け
- ⑤ 「教育課程コーディネーター」と授業者との協議

- ⑥ 本校教育専門監を活用した授業づくり  
(教育専門監による授業提案、教育専門監とともに学ぶ学習過程の検討等)
- ⑦ 教科部会の工夫・改善

《単元検討会の実施時期と検討内容》

5月 (随時 見直し)	・年間を通じて行う中心的単元における一年後に目指す姿について検討 ・各単元間のねらいと指導内容の検討	・共有シート ・単元構想シート
各単元 開始前	・単元の目標、小単元間の目標の検討 ・個別の目標と指導内容、支援の手立ての検討	・単元構想シート ・授業デザインチェックリスト
各単元 実施後	・児童生徒の変容の評価と指導内容、指導方法の評価	・授業実践チェックリスト

(5) 「教育課程コーディネーター」の活用

- ① 日々の授業づくりについて、教育課程コーディネーターが学級担任と協議し、学校目標や学部目標とのつながり等を調整

《教育課程コーディネーターと学級担任との検討事項と検討内容》

検討事項	実施時期	検討内容
個別の支援計画 個別の指導計画	4月・中間 ・年度末	・児童生徒のもつ良さや、それを生かした支援の手立て、中心的な課題がつながりをもって表記されているか。
年間指導計画 単元・題材計画	5月 他 随時	・各教科間の指導内容の関連付けはどうか。指導時数はどうか。 ・単元間、題材間のねらいのつながりはどうか。

- ② 教育課程コーディネーター会を実施し、役割や検討の視点を統一する。

II 研究計画と研究実践領域

1 研究計画

	実施時期	実施内容	研究に関して		
第 二 年 次	4月 9日	教育課程コーディネーター会	一人一人の 中心的課題 と各教科・ 領域等の年 計のつなが りを確認(教 務と連携)	今年度 の研究 の方向 性と実 施内容 の共通 理解	
	12日	研究推進委員会①			今年度の研究の計画や進め方について
	18日	研究全体会①			今年度の全校研究について
	20日	学部研①			今年度の学部研究テーマについて
	23日	単元・題材検討会①			本年度の研究領域となる教科の検討
	5月 8日	単元・題材検討会②	本年度の主となる単元・題材の検討	全校授業 研究会に 向けた授 業づくり	「秋田型 授業」の ポイント 確認
	18日	学部研②	研究全体会に向けて		
	28日	研究全体会②	今年度の学部・寄宿舍研究について		
	6月 18日	学部研③	全校授業研究会に向けて	地域アンケートの実施 (地運コードと連携)	
	7月 19日	教育課程コーディネーター会	各学部での情報共有		
20日	単元・題材検討会③				
	23日	学部研④	・学部研究の中間評価		
	8月 20日	学部研⑤			
	9月 6日	教育課程検討委員会	中間評価に関連した学部		

7日	学部研⑥	・分掌連携について 全校授業研究会に向けて	
12日	全校授業研究会①	学部研究に沿って授業提示 (中学部)	
25日	全校授業研究会②	学部研究に沿って授業提示 (高等部)	
26日	縦割り教科部会	音・美・体について	
10月17日	学部研⑦	全校授業研究会の振り返りと授業づくり	
11月12日	学部研⑧	全校授業研究会に向けて	
12月12日	全校授業研究会③	学部研究に沿って授業提示 (小学部)	
17日	学部研⑨	今年度の学部研究・実践のまとめ	
18日	教育課程コーディネーター会	次年度の教育課程編成に向けて	
19日	単元・題材検討会		
1月9日	学部研⑩	事例研のまとめと紀要原稿作成	
2月5日	教育課程検討委員会	次年度の運営方針と教育課程編成について	今年度の児童生徒の変容のまとめと評価
15日	学部研⑪	今年度のまとめと次年度の取組について	・次年度の取組についての検討 授業づくり、教育課程の改善 等
3月11日	研究全体会	今年度のまとめと次年度の取組について	
11日	教育課程検討委員会	次年度の教育課程編成について	
○各学部の教育課程コーディネーターが学級担任と教育課程編成の進捗状況を協議し、調整 <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の支援計画・個別の指導計画の立案と評価の協議</li> <li>・年間指導計画の協議</li> <li>・生活単元学習の単元・題材検討</li> <li>・授業研究会の授業づくりへの助言</li> </ul>			

## 2 研究実践領域

小学部 ～ 国語科  
 中学部 ～ 美術科  
 高等部 ～ 音楽科